

2019 年度 GAP シンポジウム

開催概要

名 称：2019 年度 GAP シンポジウム

テーマ：GAP は生産者と消費者を結ぶ懸け橋

I 東京 2020 後の農産物販売の考え方と産地の取組み

II スペイン農協に学ぶ GAP 戦略と GH 農場評価の取組み

趣 旨：2020 東京オリンピック・パラリンピック大会の開催で我が国の農業界に突き付けられた GAP 認証の取得は、農業生産者の実践が持続可能な農業であることを証明するグローバルな要求事項です。それはサプライチェーン全体の信頼を通じて消費者に伝えるものでもあります。

本シンポジウムでは、オリンピック後のさらなるグローバル化で変化する消費者意識に応えるために、日本の青果物流通業界はどのような対応をしているのかを探ります。

また、それらの変化に対応して生産段階で行うべきことは何か、家族経営農業を統制する GH 農場評価の戦略的な取組みについて、世界の最先端に行くアルメリア農業の視察報告を受けて、GAP と営農指導について討論します。

日 時：2020 年 2 月 27 日（木） 10：35～17：30 / 情報交換会 17：45～19：30

2 月 28 日（金） 9：20～16：30

会 場：東京大学弥生講堂 一条ホール（東京都文京区弥生 1-1-1）

展 示：企業等による情報展示（開催期間中）

対象者：農業試験研究者、農業普及関係者、大学・大学校、農業高校、農業生産者、農業法人、農協、出荷組合、産直団体、農林行政機関、卸売市場、卸売会社、農産加工会社、農産物流通・小売企業、外食企業、消費者、調査・検査・認証機関、研究機関、他

主 催：一般社団法人日本生産者 GAP 協会 <https://www.fagap.or.jp/>

共 催：農業情報学会、一般社団法人 GAP 普及推進機構、
特定非営利活動法人経済人コー円卓会議日本委員会

後 援：一般社団法人全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会

事務局：一般社団法人日本生産者 GAP 協会 教育・広報委員会、株式会社 AGIC 大会事務局

H P： <https://www.fagap.or.jp/seminarsymposium/sym202002/>

2月27日(木)

「東京2020後の農産物販売の考え方と産地の取組み」

	頁
主催者挨拶：日本生産者 GAP 協会 常務理事 山田正美 日本生産者 GAP 協会の活動と GH 農場評価制度について	4
基調講演：日本生産者 GAP 協会 理事長 田上隆一 日本の農産物流通と GAP ～東京2020後の GAP と農場保障の対策アルメリア農業に学ぶ～	11
講演：東京農業大学 国際食料情報学部国際バイオビジネス学科 教授 佐藤和憲 野菜フードシステムの構造変動と課題	37
講演：株式会社フルックスホールディングス 代表取締役社長 黒田久一 農産物販売の考え方と取組み ～流通業者としての取組み～	47
講演：丸西産業株式会社 監査役 岡島芳幸 流通業者の取組みとニーズ	76
総合討論：司会 田上隆一 農産物販売マーケットの考え方と生産段階の取組み	

2月28日(金)

「スペイン農協に学ぶGAP戦略とGH農場評価の取組み」

	頁
講演：日本生産者GAP協会 田上隆一 GAPは生産者と消費者を信頼で結ぶ懸け橋 ～生産者の農産物を消費者への商品に変える 施設(選果場・直売所)の衛生管理～	82
講演：株式会社AGIC 事業部長 田上隆多 産地が取り組むQMSとグリーンハーベスター(GH)農場評価	107
報告：宮崎県経済農業協同組合連合会 園芸部園芸直販課 奥村万里子 世界のGAP先進地スペインツアー報告 ～研修を終えての今後の展開～	122
報告：十和田おいらせ農業協同組合 常務理事 斗澤康広 スペインGAPツアー報告 ～アルメリア農協の総合戦略に学ぶ～	133
講演：全国農業協同組合連合会 耕種対策部GAP推進課長 門永章宏 JAグループのGAP推進の現状と課題 ～JAグループGAP支援の取組み～	152
講演：静岡県経済産業部地域農業課 農産環境班 主任 石川隆輔 静岡県におけるGAP推進の取組みについて	165
全体討論：司会 田上隆多 産地信頼への取組み ～アルメリアに学ぶ販売戦略と農家のGAP教育～	

日本のGAP普及とGLOBALG.A.P.年表 179

GH評価制度のご案内 187

※内容につきましては、変更になる場合もございますので、その旨ご容赦下さい。

※講演内容、時間は進行上の都合により変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。(敬称略)